

# 2022年度 法科大学院

## 第5期入学試験問題

### 3 時限

### 刑法

### (論文式)

## 試験時間 50 分

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## [刑法]

次の事例におけるX及びYの罪責について論じなさい。

### (事例)

Xは、Yと同居していたVに対し暴行を加えることを決意し、平成29年12月12日午後9時23分頃、Vのいるマンションの部屋に突入し、Vに対し、カッターナイフで右側頭部及び左頬部を切り付け、多数回にわたり、顔面、腹部等を拳で殴り、足で蹴るなどの暴行を加えた。

(Xの友人である)Yは、Xら突入の約5分後に帰宅し、暴行現場に遭遇した。Yは、VがXから激しい暴行を受けて血まみれになっている状況を目にして、Xに加勢しようと考え、台所にあった包丁を取り出し、その刃先をVの顔面に向けた。Xは、Yの行動を黙って見ていた。

その後、同月13日午前0時47分頃までの間に、同部屋において、XとYとは、脱出を試みて玄関に向かったVを2人で取り押さえて引きずり、リビングルームに連れ戻し、こもごも、背部、腹部等を複数回蹴ったり踏み付けたりするなどの暴行を加えた。また、Xは、Vに対し、顔面を拳で殴り、たばこの火を複数回耳に突っ込み、革靴の底やガラス製灰皿等で頭部を殴り付け、はさみで右手小指を切り付けるなどの暴行を加え、Xが、千枚通しで被害者の左大腿部を複数回刺した。

Yが加わった一連の前記暴行の結果、Vは、全治まで約1か月間を要する①右第六肋骨骨折、全治まで約2週間を要する②右側頭部切創、③左大腿部刺創、④上口唇切創の傷害を負った。これらの傷害のうち、②右側頭部切創については、Yが加担する前のXの暴行により、③左大腿部刺創については、Y加担後の暴行により生じたものであるが、①右第六肋骨骨折及び④上口唇切創については、いずれの段階の暴行により生じたのか不明である。なお、Yが加えた暴行は、①右第六肋骨骨折の傷害を生じさせ得る危険性があったと認められるが、④上口唇切創の傷害を生じさせ得る危険性があったとは認められない。